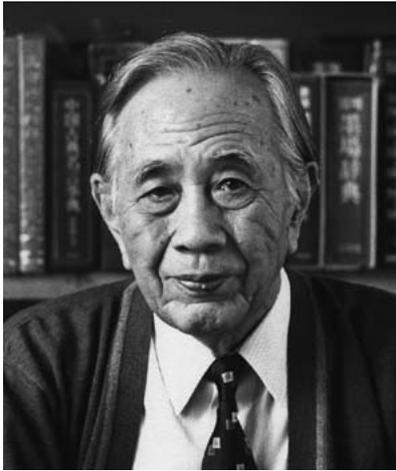


むらかみ
村上 さんとう
三島 (1912~2005)



書家。越智郡瀬戸崎村(現、今治市)出身。本名は正一^{まさかず}。大三島で生まれ育った後、大阪府三島郡吹田町(現、吹田市)に移る。雅号「三島」は大三島と三島郡に由来する。

中学時代から書に親しんでいたが、怪我がもとで足が不自由になったことから、国語教師の紹介で片山萬年^{かたやままんねん}(西予市出身)に師事し書道の道に入った。昭和20(1945)年に辻本史邑^{つじもとしゆう}に師事し、昭和23(1948)年、日本美術展覧会(通称「日展」)に書の部門が初めて設置され、初出品で初入選を果たした。その翌年には特選を受賞、以後も文部大臣賞や日本芸術院賞など受賞を重ね、昭和60(1985)年、日本芸術院会員に選定された。

中国明の時代末から清の時代初めの書家・王鐸に傾倒しながらこれに独特の解釈を加え、流麗で躍動感にあふれた独自の連綿体を確立した。また篆書、隸書、楷書、行書、草書、かなを

書き分けることのできる書家としてはもちろん、漢字・かな交りの読める書「調和体」の提唱でも知られるようになった。書道界全体の指導者、教育者として、また中華人民共和国との国際交流にも貢献したとして、平成5(1993)年文化功労者に選ばれ、平成10(1998)年には文化勲章を受章した。

略歴

大正元(1912)年 8月25日	越智郡瀬戸崎村に生まれる。
昭和2(1927)年	国語教師の紹介で片山萬年に師事する。
昭和20(1945)年	辻本史邑に師事する。
昭和23(1948)年	日展に書道部門が新設されたのを機会に《杜甫九日詩》を発表し、入選
昭和24(1949)年	日展に《杜甫寄弟詩》を出品し特選を受賞
昭和27(1952)年	日展に《陸放翁曉歎詩》を出品し特選を受賞
昭和36(1961)年	日本書芸院理事長に就任
昭和39(1964)年	日展に出品し文部大臣賞を受賞
昭和43(1968)年	日展に出品し日本芸術院賞を受賞
昭和54(1979)年	愛媛県教育文化賞を受賞
昭和56(1981)年	上浦町名誉町民となる。
昭和59(1984)年	愛媛県功労賞を受賞
昭和60(1985)年	日本芸術院会員となる。
昭和63(1988)年	勲三等旭日中綬章を受章
平成5(1993)年	上海博物館の特別顧問・特別研究員に就任 文化功労者の顕彰を受ける。
平成6(1994)年	愛媛新聞社賞を受賞。上海市より白玉蘭賞を受賞
平成10(1998)年	文化勲章を受章。高槻市名誉市民となる。
平成17(2005)年 8月 11月20日	日展に《呉蘭雪詩「陽靈山」》出品、絶筆となる。 心不全のため93歳で永眠。従三位に叙される。

〈関連図書〉

- ・村上三島『有風格 村上三島随筆集』 同朋社出版 1980年
 - ・愛媛県美術館編『村上三島展』 2002年
 - ・村上三島『村上三島の書碑』 天来書院 2003年
 - ・村上三島記念館編『生誕百年記念 村上三島展 - 調和体の提唱とその軌跡』 2012年
- 〈ゆかりのある場所〉…(P294, 122)

〈関連施設〉…村上三島記念館(上浦歴史民俗資料館)

〒794-1402 愛媛県今治市上浦町井口7505 TEL: 0897-87-4288